

平成 19 年度 事業報告

経済のグローバル化が進む中で厳しい状況が続いていますが、平成 19 年 1 月の観光立国基本法の施行を受け、国や自治体、関係団体で振興計画の策定や具現化のための様々な方策が検討されてきました。こうした中で下呂温泉の昨年度の宿泊客数は厳しい状況の中ですが、わずかながら 3 年連続の増加となりました。

岐阜県と JR 6 社により“ぎふデスティネーションキャンペーン”が 10 月 1 日から 12 月末まで 27 年ぶりに展開されました。このキャンペーンに向けて 1 昨年からの誘致事業が展開されており、19 年度は全国主要都市での観光展やキャラバンなどが行われ、下呂市と連携を図り大半の事業に参加し、下呂温泉の特長を生かした効果的な誘客事業に取り組んでまいりました。

また、高山本線が 9 月に 3 年ぶりに全線復旧開通したことと、東海北陸自動車道の全線開通をにらみ北陸地方の新規開拓事業として、金沢・富山駅での観光展を始め北陸・上越方面で誘客宣伝事業を展開しました。

その他、国、県、観光諸団体とも連携を密にしながら積極的に事業に参加し、誘致宣伝に努めてまいりました。

各種媒体による観光宣伝やパブリシティなど効果的な情報発信に努めながら、東京・大阪・名古屋では 2 年目を迎えた下呂温泉ふるさと観光大使との意見交換会を中心に観光展やキャラバン事業などを絡めながら誘客事業を実施しました。

研修事業として続けてきました車上セミナーは 20 回を数え、地震被災地の能登方面を訪ね危機管理について認識を新たにしました。

外国人観光客の誘致では、下呂市台湾連絡事務所や JNTO などの関係機関からの情報の収集と提供や関係機関の招致事業などにも積極的に参加しました。

地域活動として温泉街への花木の植栽事業や清掃活動など環境整備に取り組むとともに、「いでゆ夜市」、「キャンドルイルミネーション」などのイベントを継続実施してまいりました。

また、「下呂温泉まつり」や「花火ミュージカル」等はじめ、関係諸団体の催事や、シニアソフトボール大会、下呂温泉卓球大会、日本温泉協会総会等のコンベンション活動の支援や協力をしてきました。

濃飛横断自動車道の事業促進、国道 257 号の改良ほか幹線道路や関連アクセス向上、及び河川整備など基盤整備事業についても関係機関との意見交換や要望活動を展開してまいりました。

こうした観光協会の動きを「観光協会だより」にまとめ、隔月毎に市内全域に新聞折込みをしました。

旅行形態が変化し転換期を迎えた中で、地道な努力の積み重ねで今年度の事業を展開してまいりました。皆様の格別のご協力に感謝申し上げます。